

短大特任教員教育研究業績書

平成30年 5月 2日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
磯崎 えり奈	いそざき えりな	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・ <input checked="" type="checkbox"/> 助教	男・ <input checked="" type="checkbox"/> 女

担当科目名

造形表現Ⅰ、造形表現Ⅱ

学 歴

和暦(西暦)年 月	事 項	学位
平成 11(1999)年 4月	東京藝術大学美術学部工芸科 入学	
平成 15(2003)年 3月	東京藝術大学美術学部工芸科鍛金専攻 卒業	学士(美術)
平成 15(2003)年 4月	東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻鍛金修士課程 入学	
平成 17(2005)年 3月	東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻鍛金修士課程 修了	修士(美術)
平成 17(2005)年 4月	東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻鍛金修士課程 研究生 (平成 18年 3月まで)	

教 育 歴 ・ 職 歴

名 称	期 間	教育内容又は業務内容
茨城県立取手松陽高等学校美術科	平成 15年 4月～ 平成 27年 3月	美術・工芸 非常勤講師
茨城県立取手第一高等学校	平成 20年 4月～ 平成 24年 3月	美術 非常勤講師
東京藝術大学美術教育研究室	平成 24年 4月～ 平成 27年 3月	教育研究助手
東京藝術大学美術教育研究室	平成 27年 4月～	非常勤講師
都留文科大学学校教育学科	平成 27年 4月～	非常勤講師

所 属 学 会 等

名 称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
美術教育研究会	平成 24年 4月～	会員

社 会 活 動 等

名 称	活動期間	活 動 内 容
東京都立飛鳥高等学校の依頼による「日本の美術・工芸」(金工)の授業 講師	平成 25年 1月 12日 1月 13日 1月 14日(計 12時間)	東京都立飛鳥高等学校における日本の伝統・文化理解推進教育支援により、金工の授業の立案と指導をした。授業では銅版と真鍮板を使い、切ばめ象嵌でネームプレート作りを行った。
東京都立飛鳥高等学校の依頼による「日本の美術・工芸」(金工)の授業 講師	平成 25年 11月 23日 24日 30日(計 12時間)	東京都立飛鳥高等学校における日本の伝統・文化理解推進教育支援により金工の授業の立案と指導をした。授業では切ばめ象嵌体験を行い、前年度は平面作品であったが、さらに曲面にすることで立体的な造形作品を制作できるようにした。
広島県立美術館・NHK 広島放送局の主催 東京芸術大学大学美術館企画「本当の「ものづくりってなんだろう」 講師	平成 26年 7月 5日	東京芸術大学大学美術館企画「The Art of Gaman 尊厳の芸術」展の関連イベントとして、広島県立美術館・NHK 広島放送局の主催で、広島市立袋町小学校の6年生を対象としたワークショップを行った。展覧会の作品が作られた背景、状況を理解し、戦争、平和、生きることについて考えることを目的とした。
東京都荒川区教育委員会の依頼による東京藝術大学受託事業「何に見える? トントン叩いて模様をつけて、どこに飾ろう」講師	平成 26年 8月 25日	東京都荒川区教育委員会の依頼による東京藝術大学受託事業。南千住第二幼稚園全園児対象。チーフリーダーとして企画・立案をした。工芸の鍛金技法を用いた造形体験を行なった。

東京都立飛鳥高等学校の依頼による「日本の美術・工芸」(金工)の授業 講師	平成 26 年 9 月 17 日 9 月 19 日 9 月 20 日 (計 12 時間)	東京都立飛鳥高等学校における日本の伝統・文化理解推進教育支援により金工の授業を立案し指導した。銅版を金槌で叩き成形する絞り技法を用い、器を制作した。技法を学ぶことで、素材への関心と思考を深め、工芸への興味と自身の生活との繋がりに気がつくことを目的とした。
静岡県袋井市の依頼による東京藝術大学受託事業「鍛金体験・パエリア鍋をつくらう」 講師	平成 27 年 9 月 26 日 9 月 27 日	静岡県袋井市の依頼による東京藝術大学受託事業。対象 18 才以上。鍛金技法で用いる道具を使い制作体験することで、身近な物を自身の手から作り出し、楽しみながら生活の中に取り込むことで、美術への興味を引き出すことを目的とした。
東京都立飛鳥高等学校の依頼による「日本の美術・工芸」(金工)の授業 講師	平成 27 年 10 月 1 日 10 月 6 日 (計 12 時間)	都立飛鳥高等学校における日本の伝統・文化理解推進教育支援により金工の授業を立案し指導した。自身でデザインや機能を考え、金属(銅板、真鍮、銀)の板材や棒材で、装身具(ジュエリー)を制作することで、日本の伝統や精神性に触れ、工芸、美術への興味や関心を引き出すことを目的とした。
都留市谷村第二小学校における体験学習会「陶芸講座」講師	平成 27 年 10 月 17 日	都留市谷村第二小学校における体験学習会を都留文科大学初等教育学科図工・美術教室の教員と学生で行った。地域交流研究センターによる地域連携アート活動。小学生の親子を対象とした。陶芸でカップを制作することを通して親子でのふれあいを深めることを目的とした。
荒川区南千住第二幼稚園からの依頼による「カリンパ町へようこそ」一形も色も音色も違うオリジナルカリンパを作ろうー 講師	平成 27 年 11 月 17 日	荒川区南千住第二幼稚園から東京藝術大学美術教育研究室への依頼によるワークショップ。南千住第二幼稚園年長児対象。講師として企画・立案した。身近にある材料を使いカリンパを制作した。身近にある素材への興味と、その素材を工夫することの面白さや、物が出来上がるまでを考える力や想像力を養うことを目的とした。
都留市谷村第二小学校における体験学習会「陶芸講座」講師	平成 28 年 10 月 22 日	都留市谷村第二小学校における体験学習会を都留文科大学初等教育学科図工・美術教室の教員と学生で行った。地域交流研究センターによる地域連携アート活動。小学生の親子を対象とした。陶芸でカップを制作することを通して親子でのふれあいを深めることを目的とした。親子が楽しみながら進められるよう教員と学生の全員が協力しながら進めた。
青森県の依頼による受託事業「文化芸術を志すチャレンジ精神に富んだ人材を育成する アートスクール(美術部門・デッサン体験)」講師	平成 29 年 3 月 4 日 3 月 5 日	青森県内の高校生対象。30 名。日々芸術に取り組んでいる高校生を対象に、東京藝術大学との連携による「アートスクール」を開催。先端の芸術表現に触れ、表現芸術を伸ばす機会を提供すると共に、青森県の芸術分野における育成につなげることを目的とした。美術への興味や、向上心を引き出すことができるよう、鉛筆または木炭で静物や石膏像のデッサンを指導した。
東京藝術大学美術教育研究室の授業である素材論での講義 講師	平成 29 年 7 月 10 日	東京藝術大学美術教育研究室の必修授業「素材論」での特別講義「制作論」の講師として自身の美術作品の制作について講義を行った。
都留文科大学初等学科子ども公開講座地域交流研究センターによる地域連携アート活動「陶レリーフ」講師	平成 29 年 7 月 22 日	都留市内の小学生 30 人対象。都留文科大学初等教育学科図工・美術教室の教員と学生で行った。陶芸の粘土(赤土、白カラー粘土)を用意し、壁にかけられる半立体作品を制作した。小学生が自由な発想で様々な形を陶芸の用具を使い表現できるよう指導した。
第 3 回東京都特別支援学校アートプロジェクト展「未来へ〜心ゆさぶる色・形〜」第一次審査 審査員	平成 29 年 9 月 1 日	東京都内の特別支援学校に在籍する児童・生徒が制作した作品の展覧会のため、東京都教育庁指導部特別支援教育指導課からの依頼により、第 1 次審査の審査員として作品を選考した。
青森県の依頼による受託事業「文化芸術を志すチャレンジ精神に富んだ人材を育成する アートスクール(美	平成 29 年 9 月 30 日 10 月 1 日	青森県内の高校生対象。30 名。日々芸術に取り組んでいる高校生を対象に、首都圏の芸術大学等との連携による「アートスクール」を開催し、先端の芸術表現に触れ、表現芸術を伸ばす機会を提供すると共に、青森県の芸術分野における育成につなげることを目

術部門・デッサン体験」 講師		的とした。美術への興味や、向上心を引き出せるよう、静物や石膏像のデッサンで使用する用具の使い方や知識をわかりやすく伝えるよう工夫した。
東京都立特別支援学校受託 研究「金工で作るカトラリ ー」講師	平成 29 年 10 月 17 日 10 月 20 日 10 月 27 日 2 月 27 日 3 月 1 日	東京都立町田の丘学園の高校生対象。1 年を通して金工と和紙の授業を指導した。前半は工芸の中でも鍛金の技術を用い制作を豊かにする器やカトラリーを制作した。機能を持った作品を作ることと美術を身近に感じることや、制作過程の中から、身体を使い作ることの楽しさを味わうことを目的とした。後半は桑の茎を使い和紙を作る体験授業を行った。

担当教科目に関する資格・免許等

名 称	取得年月	取 得 機 関
中学校教諭一種免許状 (美術)	平成 15 年 3 月	東京都教育委員会
高等学校教諭一種免許状 (美術・工芸)	平成 15 年 3 月	東京都教育委員会

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 図画工作読本	共著	平成 28 年 12 月	都留文科大学 (全 43 項)	図画工作に関わる大学教員などの研究者、美術の作家や現役の小学校教師、学生などが、それぞれの立場や専門性から考える図画工作の意義や可能性について述べている。本書では、これらについて「図画工作の活動」、「図画工作の特徴と道具」、「図画工作にもとめられること」の観点から整理するとともに、従来の図画工作の持つ可能性を確認しつつ、新たな時代に向けた可能性を積み上げている。(pp:10~11) 著者：竹下勝雄、鳥原正敏、磯崎えり奈、他 10 名
(学術論文等) 工芸の多様性と現代的 可能性—金工作 品の制作過程に おける「工芸的 思考」を手がかりに—	単著	平成 27 年 8 月	美術教育研究会 美術教育研究 No20/2014 (全 15 項)	近代からの工芸と現代美術の思考の違いを工芸の持つ歴史と、日本の文化や習慣、また現代の作家の制作過程などから検証し、自身の大学で学んだ金工と、現在の作品の制作過程を手がかりに、工芸から得た思考を持つ作品の意味を考察したものである。
日本の伝統文化 理解推進教育に おける授業実践 —東京都立飛鳥 高等学校での 「日本の美術・ 工芸」について —	共著	平成 28 年 7 月	美術教育研究会 美術教育研究 No21/2014 (全 14 項)	東京都立飛鳥高等学校で実践した「日本の美術・工芸」の授業実践を報告するものである。講座内で「木工」「金工」「染色」の 3 授業が実施され、その授業講師を東京藝術大学の若手教員が担い、高校教員と協力して授業を実践してきた。他校にはない、独自の授業実践について、授業に携わった高校、大学担当者から報告する。(pp : 20~33) 著者：本郷寛、西山大基、磯崎えり奈、橋本圭也、青柳路子、野田紘子
(その他) 展覧会発表・ 作品設置				
「新古吸」	共	平成 20 年 3 月	桃林堂	陶芸作家と金工作家によるグループ展。金属の立体作品を展示した。

「マスカレード 仮面展」	共	平成 20 年 11 月	スペースガレリア	絵画、工芸、彫刻など 16 名の仮面をテーマにした展示 に参加した。
「もうひとつの アンデルセン物 語」	共	平成 21 年 3 月	船橋市アンデルセン 公園子ども美術館	アンデルセンの童話をテーマにした企画展。絵画、工 芸の作家によるグループ展。鉄の彫刻作品を展示した。
「それぞれの器 展」	共	平成 22 年 7 月	上野松坂屋ギャラリ ー	東京藝術大学工芸科修了生によるガラスと金工のグル ープ展。オブジェや器などを展示した。
「東京芸術大学 助手有志展」	共	平成 24 年 6 月	東京芸術大学 陳列 館	東京藝術大学美術学部の助手によるグループ展。鉄の オブジェを展示した。
「いつものこ と」	単	平成 25 年 5 月	oco gallery	生活の中から生まれた形を、鉄の線材を中心に用い制 作し、立体作品を 18 点展示した。
「美教展」	共	平成 25 年 6 月	藝大アートプラザ	東京藝術大学美術教育研究室現教員によるグループ 展。鉄を用いた作品 4 点を展示した。
「Box」	共	平成 25 年 7 月	Gallery58/東京	箱をテーマにしたグループ展に参加。鉄を用いた作品 1 点を展示した。
「メモノタグ イ」磯崎えり奈 中嶋明希二人展	共	平成 25 年 9 月	いりや画廊	東京藝術大学工芸科鍛金研究室を修了した 2 人による グループ展。
「うへのえきの うえ」	共	平成 25 年 11 月	上野駅ブレイクステ ーションギャラリー	東京藝術大学美術教育研究室現教員によるグループ 展。鉄を用いた作品を展示した。
「MITSUKOSHI× 東京芸術大学 夏の芸術祭 2014 次代を担う若手 作家作品展	共	平成 26 年 8 月	日本橋三越本店	東京藝術大学卒業生によるグループ展。作品 1 点を展 示した。
「線のゆくえ」	単	平成 26 年 9 月	GALLERY OMONMA TENT	鉄の棒材を使い空間に線で描くことをコンセプトと し、彫刻作品を 5 点展示した。
「うへのえきの うえ」	共	平成 26 年 12 月	上野駅ブレイクステ ーションギャラリー (一)	東京藝術大学美術学部の教員によるグループ展。鉄を 用いた彫刻作品を 1 点展示した。
「Gather」	単	平成 27 年 12 月	日ノ出保育園	社会福祉法人 南流山福祉会 日ノ出保育園から東京 芸術大学への依頼による園内装飾の設置 (図書コーナ ー)。鉄を用いた作品を制作、設置した。
「非用の美」	共	平成 28 年 3 月	Gallery 睦	工芸を学んだ、金属、染織、陶芸作家によるグループ 展。作品 3 点を展示。
「遠くの出来事 と意味のない部 屋」	単	平成 28 年 10 月	ROUTE BOOKS	鉄、石、を用いた作品を 5 点制作。インスタレーショ ンを行った。
クリエイション の未来展 宮田 亮平監修「みな	共	平成 29 年 1 月	LIXIL ギャラリー	第一期 12 名、第二期 11 名による文化庁長官宮田亮平 東京藝術大学工芸科鍛金研究室で学んだ、第一期 12 名、第二期 11 名による文化庁長官宮田亮平監修のグル

<p>の衆—東京藝術 大学鍛金研究室 で学ぶ」</p> <p>「壁 11m²の彫 刻展」</p> <p>「つくること できること展」</p> <p>「石山美佳・磯 崎えり奈 展」</p>	<p>共</p> <p>共</p> <p>共</p>	<p>平成 29 年 6 月</p> <p>平成 29 年 9 月</p> <p>平成 30 年 2 月</p>	<p>いりや画廊</p> <p>ギャラリーとくなが</p> <p>のぼな Art Work 銀 座</p>	<p>ープ展。金属を用いたインスタレーション作品を展示 した。</p> <p>彫刻作家によるグループ展。鉄による作品 2 点を展示。</p> <p>平成 29 年に起こった九州豪雨災害で、東京藝術大学出 身の陶芸作家が被害を受けたことをきっかけに、2003 年卒東京藝大工芸科同級生 21 名による小石原復興プ ロジェクトとして福岡県で展覧会を開催。作品 2 点を 展示した。</p> <p>金属を扱う作家の 2 人展。作品 8 点を展示。</p>
<p>その他 (表彰等)</p>				